

見ていてね^み

■ 楽曲データ

歌詞：小谷蓮乗 作詞

楽曲：本多鉄磨 作曲

発表：浄土真宗本願寺派保育事業協会

初演：—

初出：—

管理番号：M1351

■ 創作の経緯

保育事業協会（現・浄土真宗本願寺派保育連盟）からの求めによって創作。資料の状況から、遅くとも1961年までには作曲されていたと推測される。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集 こども編』第1巻収録

底資料：『仏教讃歌 こどものうた』 本願寺出版協会 1973年

比較資料1：『あおい空 こどもの歌I』 東本願寺出版部 1972年

比較資料2：『幼児向け仏教讃歌 ほとけのこどものうた』 本願寺出版社 1996年

比較資料3：『保育資料500号のあゆみ』 浄土真宗本願寺派保育連盟 2000年

校訂の詳細：特になし

■ 解説

秋の行事といえば、運動会に遠足、おいも掘り。そしてもうひとつ、私たちが何より大切にしたいのが「報恩講」です。

報恩講は、親鸞さまのご命日をご縁としておつとめする法要です。親鸞さまがお亡くなりになったのは、今から750年あまり前のこと。ご生涯をかけて、阿弥陀さまがいつも私たちを見守ってくださっている、と教えてくださいました。そのご恩を思い、「親鸞さま、ありがとう」とお礼を申しあげるのが、報恩講なのです。園でおつとめをしたり、近くのお寺へお参りに行かれるところも多いのではないのでしょうか。

その折にはぜひ、親鸞さまを讃える仏教讃歌《見ていてね》を歌ってみてください。この作品は、『真宗の教えとまことの保育』（浄土真宗本願寺派保育連盟教育原理委員会編、保育連盟発行、2014年）において、「幼児のおつとめ」のなかで歌う「讃歌」の例としてとりあげられています。日々のお参りや、親

鷺さまをご縁とする行事に採りいただければと思います。

◆作品について

作詞・作曲の佐藤晃海（1912～88）は、京都市内の幼稚園で園長を務めた方で、保育連盟の運営にも携わっていました。

歌詞は、関西弁まじりの話し言葉で綴られています。歌い出しに用いられている「見ていてね」「きいててね」——子どもたちが一日に何度となく発するこの呼びかけを、佐藤さんも毎日聞いていたのではないのでしょうか。子どもたちに親鷺さまを親しく感じてほしい、という作者の願いを感じながら、歌ってみてください。

◆演奏のヒント

歌詞と同様に、旋律も親しみやすい音の運びとなっています。前半は、6小節目の四分休符、8小節目の八分休符がポイントです。これらを活かして、親鷺さまにお話しているような雰囲気をつくりましょう。また、後半の音が高い部分やフォルテの部分では、声を張り上げないように。

伴奏は、前奏で急いでしまわないように気をつけましょう。ところどころに出てくる左手のスタッカートは、演奏に豊かな表情をもたらすのに有効ですから、弾き方を工夫してみてください。

◆音源について

音源は、CD『ののさまといっしょ ほとけのこどものうた』に収録されています。

解説執筆：山口篤子（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員）

※本解説は、「仏教讃歌」No. 83（保育連盟機関誌『月刊保育資料 まことの保育』第687号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.